
泪月

小羽 朔夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泪月

【Zマーク】

N6491D

【作者名】

小羽 朔夜

【あらすじ】

妾を何ゆえとどめられようか、たとい時の御門といえど。竹取物語を題材とした異色詩。

異質で歪で詭むべを表す「の世」に在りがれるモノ。本来ならば、在るべきでないモノ。

まして、この世に何故妻は在ったのだろうか。

花（桜）の舞い降りたる頃、養父や養母がそろそろ良き殿方と逢う（結婚し）ては、と仄めかし始めた。新芽の息吹く、この世人の心をも浮き立たせる穏やかなその季には、何処より聞きつけたのであるか、常にもまして様様な身分の者から文が届いていた。その気が滅入るような嵩の中に、あの方からの文が交じっていた。流れるような手、鮮やかな紙。結局御返しがせず。しかし、秋の音聞く文月の今でさえ忘れることが敵わなかつた。

早く添い遂げよとて、お家のためといへども、このよつた憂世に如何なる幸福とやらが有るところのか、妻には皆田見当もつかなかつたといつて。

この世界が合わぬのか、この妻が相居れぬ悪しモノなのか、幸福になれるとは、ましてやこのが居場所だとは到底思えなかつたというに。

まあ、よい。それらも全て済んだこと。時の御門よ、妻をこの世に縫い止めようとすれども、兵どもを集め、備つてもこのことばかりは誰にも止められはいたせませぬ。

たとい、妾が如何に行きとづなくとも。

たとい、如何ほどに妾が恋焦がれていよつとも。

この迎えのみは、最も忌むべき死のみは。貴方様でも押しつどじめる
ことは敵いません。

ああ、せめて貴方様にお別れを告げりむれば。
されば来世は貴方様に添い遂げりむやもしれぬの。」

(後書き)

実は、初めて此処で書いた文章を加筆修正したモノです。とはいっても現代表現と交わっている部分は作者の力量不足で直りませんでした。

私はあの物語を読むとき、彼女自身は普通の幸せな未来を望んでいたように感じるのです。それを文字で著してみたのですが、最初はずっと蔵に入れておこうと思つていました。しかし、他の方の意見に触れてみたくて今回蔵出しに遭き着けることとなりました。賛否両論あると思いますので意見をお寄せ頂ければ幸いです。

読んで下さつあつがと「わこました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6491d/>

泪月

2010年12月30日18時27分発行